

# 急変者が出たときにどうしますか？

## 全職員が学ぶ救命の連鎖

達生堂グループの全職員が、職場やふだんの生活の中で心肺停止などの急変者が出た場合、どう対応すればいいのか—救急災害医療委員会主催の「急変対応勉強会」が6月16日、城西病院で開かれました。この勉強会は、毎年新入職者を中心に実施。今年も新型コロナウイルス感染防止のために55人の新入職者を2回に分けて行います。

勉強会は、JRRT（城西グループ急変対応チーム）による、病棟内の急変者発見を想定したデモンストレーションでスタート。続いて委員長の村田智史医師により、CPA（心肺停止）の急変者を発見した時、反応の確認、通報、心肺蘇生（胸骨圧迫やAEDによる処置）を医師やJRRTが到着するまで切れ目なく行う、「救命の連鎖」を学びました。「急変が出た場合、1人で心肺蘇生をやってAEDを取りに行ってしまうという事はできない。まず、大声で人を呼ぶこと。チームとなって対処することが大切」と話し、医師や看護師を招集するとともに、AEDや救急カートを持ってきてもらい、心肺蘇生などを行う、救命の連鎖を解説しました。

実技では、4人が1チームとなり、ダミーを使って胸骨圧迫やAEDを体験。参加者は、胸骨圧迫のやり方やAEDの安全な取り扱い方法をJRRTのメンバーから教わりながら、真剣に取り組んでいました。

2021年6月18日

